

県内上半期交通事故発生状況

死者数6人、前年比5人の減少

県警察本部

山形県警察本部のまとめによると、県内の本年1月から6月までの交通事故発生状況は、別表1のとおり、発生件数が1,178件で前年同期比17件(1.4%)の減、負傷者数が1,404人で同14人(1.0%)の減、死者数は6人で同5人(45.5%)の減となっています。

死者数6人のうち、65歳以上の高齢者は5人(前年同期比3人減)で、全体に占める割合は83.3%といます。

依然として高い状況が続いています。県内の過去5年間の発生状況は別表2のとおりで、発生件数及び負傷者数は、令和3年以降は減少傾向が続いています。

県内の死者数6人のうち、歩道横断中が41件、その他横断中が28件、歩行者が33件などとなっています。また、車両相互の事故原因では、追突がもっとも多く451件、出会い頭が339件、右左折時が97件、対向車間122件、うち、歩道横断中が41件、その他横断中が28件、歩行者が33件などとなっています。

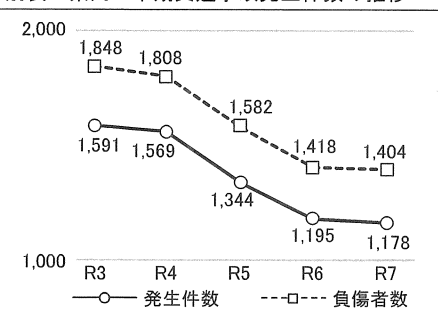
発生件数1,178件のうち、類型別では人対車両が122件、前年同期比18件増、車両相互が1,035件(同7件増)、車両単独が21件、同42件減となっています。

夏場は暑さや疲れなどから、ぼんやり運転による正面衝突や車両単独事故が多く発生する時期です。車を運転する際は、「前をよく見て運転に集中」「一時停止はしっかり止まる」「一時停止はしっかり止まる」「眠気を感じたらすぐ休憩」「全席シートベルト着用を徹底するほか、体調管理を適切に行う」とともに、体調不良時は運転しないなど交通事故防止に努めてください。

別表1 上半期県内の交通事故発生状況

	発生件数	死者数	負傷者数
本年	1,178	6	1,404
前年	1,195	11	1,418
増減	-17	-5	-14
増減率	-1.4	-45.5	-1.0
1日平均	6.5		7.8

別表2 県内上半期交通事故発生件数の推移



死者数の推移	R3	R4	R5	R6	R7
うち高齢者(割合%)	14	9	16	11	6
	57.1	77.8	43.8	72.7	83.3

全国の死者数

警察庁のまとめによると、本年上半期の全国の交通事故死者数は1,161人で前年同期比21人(1.8%)の減少となっています。うち高齢者は659人で同比9人(1.4%)増加し半数以上を占めています。

県内の車両保有台数減少傾向続く!

令和6年度末総計908,272台

東北運輸局

東北運輸局のまとめによると、山形県の令和7年3月末における車両保有台数は、別表のとおり、総計が908,272台で前年同期比3,821台の減少となりました。

登録自動車のうち乗用は397,884台で前年同期比2,245台の減少、軽自動車についても41,560台で同575台の減少となっています。

その後は減少に転じています。多くの車種が減少する中、小型二輪車については対前年度比170台の増加となりました。

別表 県内の車両保有台数の推移(各年3月末時点)

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
貨物	61,418	61,070	60,993	60,535	59,453
乗合	2,439	2,373	2,286	2,224	2,180
乗用	407,576	404,957	402,897	400,129	397,884
特種(株)	21,468	21,579	21,676	21,762	21,717
計	492,901	489,979	487,852	484,650	481,234
軽自動車	411,560	411,167	412,970	412,135	411,560
小型二輪車	14,216	14,510	14,962	15,308	15,478
総合計	918,677	915,656	915,784	912,093	908,272

「東北ハイウェイ・サーフティ作戦」展開中!

県高速道路交通安全協議会

山形県高速道路交通安全協議会と山形県警察本部、高速道路交通安全警察隊は、東北6県の高速道路関係機関・団体と共に、行来や帰省等により交通量が増加する時期に合わせて、7月19日から8月18日までの1か月間、「令和7年東北ハイウェイ・サーフティ作戦」を展開し、高速道路路上における交通事故防止を目的とした広報啓発活動等を行っています。

本県では7月18日、山形北インターチェンジにおいて出発式が行われ、やまがた舞子の美咲さんが1日高速道路交通安全警察隊長に委嘱されました。式では美咲さんが「交通事故が1件でも減るよう、優しい運転を心がけてほしい」とあいさつしたほか、演舞を披露し、式に花を添えました。その後、大型トラックや大型バスによる安全運転啓発パレードや、同所において高速道路を利用するドライバーに無きよう逆走などを書かれたチラシ等を配布し交通安全を呼びかけました。

令和7年度交通安全ファミリー作文コンクール作品募集中!

警察庁

交通安全ファミリー作文コンクールは、各家庭などにおいて交通安全について話し合いを行うことにより、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを習慣付けることを目的として、警察庁や全日本交通安全協会などが主催となり、昭和54年度から実施しているものです。本年度は次の要領で実施されます。

応募区分
●小学生の部
●中学生の部
●作文の題材等
家庭、学校、地域等において、交通安全について

考え、話し合った内容やその結果実行していることなどを1200字程度(小学生は400字から1200字程度)の作文にして応募してください。

応募方法など詳しくは警察庁ホームページでご確認ください。

令和7年度交通安全ファミリー作文コンクール

作品募集!

作文の題材
交通安全に関する身近な出来事、事故、危険な運転、安全運転の大切さ、交通安全のルール、交通安全の啓発活動など、交通安全に関心のあるテーマを自由に選べます。

応募期間
令和7年7月4日(金)～9月12日(金)

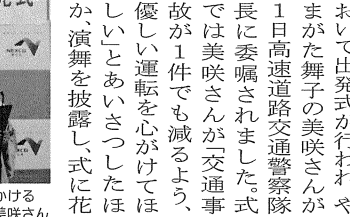
応募区分
●小学生の部 ●中学生の部

賞状
各賞状に交通安全の啓発活動に関するイラストが添付されます。

入賞者の発表
入賞者の発表は、令和7年10月開催の交通安全全国大会で発表されます。



安全運転啓発パレード出発



交通安全を呼びかけるやまがた舞子の美咲さん

高速道路安全運転5則

- ① 安全速度を守る
- ② 十分な車間距離をとる
- ③ 割り込みをしない
- ④ わき見運転をしない
- ⑤ 路肩走行をしない

高速道路緊急時3原則

- ① 路上に立たない
- ② 車内に残らない
- ③ 安全な場所に避難する

県内の高速道路では、6月末時点で人身事故が7件、昨年同月比8件減、負傷者が12人(同8人減)となっています。

災害の“危機が来る”を見逃さない！ ～キキクルの活用で命を守る～

気象庁

近年、ゲリラ豪雨や線状降水帯による水害が全国各地で頻発しています。そんな中、気象庁が提供する防災情報サービス「キキクル（危険度分布）」が注目を集めています。

キキクルとは？

「危機が来る」の略称で、大雨による災害の危険度を地図上で色分け表示するサービスです。気象庁の公式サイトで無料公開されており、スマートフォンやパソコンから誰でもアクセスできます。

1 対応する災害種別

- ・土砂キキクル：土砂災害の危険度
- ・浸水キキクル：内水氾濫（都市型浸水）の危険度
- ・洪水キキクル：河川の氾濫による洪水の危険度

2 色分けによる危険度表示（5段階）

色	警戒レベル	危険度	行動の目安
黒	5相当	災害切迫	命の危険。即避難または垂直避難
紫	4相当	危険	速やかに避難開始
赤	3相当	警戒	高齢者などは避難開始
黄	2相当	注意	今後の情報に留意
無色	－	平常	特に危険なし

※「黒」になる前に避難を完了するのが理想です。

3 活用方法

① アクセス方法

- ・スマホやPCで「キキクル」と検索
- ・気象庁のキキクルページにアクセス

② 地図で現在地の危険度を確認

- ・拡大・縮小や地域選択が可能
- ・10分ごとに更新、最大3時間先まで予測表示

③ 通知サービスの活用

- ・危険度が上昇した際にスマホへ通知

4 事前の備えも忘れずに

- ・ハザードマップと併用して避難ルートを確認
- ・避難行動判定フローで自宅や職場の避難方法を事前に検討
- ・家族との連絡手段や集合場所の確認も重要

5 まとめ

「キキクル」は、災害の危険度を視覚的に把握できる“命を守る地図”です。大雨が降ったら、まずはキキクルをチェック。そして、危険度が高まる前に避難する判断と行動が、みなさんと大切な人の命を守ります。

別表 6月新車新規登録・届出台数

		7年6月	前年同月	増 減	率	
登録自動車	乗 用	普 通	1,088	1,203	▲ 115	▲ 9.6
		小 型	828	682	146	21.4
		計	1,916	1,885	31	1.6
		貨 物	218	239	▲ 21	▲ 8.8
		その他	54	97	▲ 43	▲ 44.3
		計	2,188	2,221	▲ 33	▲ 1.5
軽自動車		1,805	1,775	30	1.7	
小型二輪車		35	50	▲ 15	▲ 30.0	
総 合 計		4,028	4,046	▲ 18	▲ 0.4	

注1) 乗用車・普通は3ナンバー、乗用・小型は5ナンバー、貨物車は1又は4ナンバー、その他はバス、特種用途車等である。
2) 軽自動車については、軽自動車検査協会調べの速報値

山形県の6月における新車新規登録・届出台数は、総合計4,028台で前年同月比0.4%減と2ヶ月連続の減少となりました。○登録自動車は合計で15%減と2ヶ月連続の減少となりました。乗用車全体では1.6%増で2ヶ月ぶりに増加、うち普通車が9.6%減と2ヶ月連続の減少に対し、小型車については21.4%増と6ヶ月連続の増加となりました。貨物車全体では8.8%減と2ヶ月ぶりに減少、その他のバス、特種等についても44.3%減と9ヶ月

6月の県内新車新規登録・届出台数
☆6月総合計0.4%減（2ヶ月連続減少）
東北運輸局

近年、山形県内でもゲリラ豪雨や台風による道路冠水が相次いでいます。日本自動車連盟（JAF）が2024年に実施した冠水路走行テストでは、電気自動車（EV）・ハイブリッド車（HV）・ガソリン車それぞれの走行性能と危険性が検証されました。

1 テスト概要

- ・実施場所：三重県伊賀市・ジェイテクト試験場
- ・水深：30cm/60cm
- ・進入速度：10km/h・30km/h

km/h・40km/h

- ・使用車両：EV、HV、軽自動車（ガソリン車）

2 テスト結果から見た危険性

- ◇水深30cm
- ・3車種とも走行可能だったが、車内やボンネットへの浸水が確認
- ・EV・HVはアンダーカバーやホイールカバーが外れるなどの損傷あり
- ◇水深60cm
- ・10km/hでは走行可能だったが、30km/h以上

では警告灯の点灯やエンジン停止が発生、ガソリン車は40km/hで途中停止し、車内に大量浸水

- ・HVは走破後にエンジン停止
- ・EVは走行継続できたが、複数のシステム異常警告が表示

3 実際の冠水路はさらに危険！

- ・水深の判断が困難（濁っている・暗い）
- ・マンホールの蓋が外れている可能性



水深や速度の違いによる冠水路走行の挙動を検証した



いずれもプロのスタントマンが運転し、一定の条件で走行できるようにした

夏休みシーズンに入り、車による遠出の機会が多くなりますがみなさん、後部座席のシートベルトも忘れずに着用していますか？

「後部座席だから大丈夫」「そんな思い込みが、命取りになることがあります。自動車のシートベルトは、運転席助手席だけでなく、後部座席でも着用が義務です。交通事故の衝撃は、前も後も関係なく襲ってきます。警察庁とJAFの調査によると、令和6年の後部

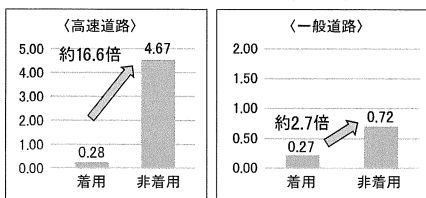
座席シートベルトの着用率は、全国平均で高速道路が79.7%、一般道路が45.5%で一般道路では半数以上が未着用という危険な状況となっています。着用しない状況では、一気に致死率が跳ね上がり、高速道路では着用時の約16.6倍、一般道路では約2.7倍と言われています。また衝突時後部座席から車外へ投げ出される事故や、後席の人が前方に飛び出し、前席の人がエアバッグと挟まれて重傷を負うケースも起きていま

す。道路交通法第71条の3により、運転者は後部座席の同乗者にもシートベルトを着用させる義務があり、高速道路で未着用の場合、運転者に違反点数1点が科されます。○正しい着用方法

- ・肩ベルトは首ではなく鎖骨の中心を通す
- ・腰ベルトは腹部ではなく骨盤を巻くように
- ・ベルトにたるみやねじれがないか確認

※妊娠中や体格により着用が困難な場合は、医師の

自動車後部座席同乗者中死傷者のシートベルト着用・非着用別致死率



冠水路は“見た目以上に危険！” JAF走行テストから見た車種別リスク

一般社団法人 日本自動車連盟

側溝や段差の存在が見えない
水圧でドアが開かなくなることも
JAFはエンジンがないから大丈夫という誤解に警鐘を鳴らしています。EVであっても、冠水

路への進入は極めて危険です。冠水路は、車種を問わず、走れるかどうかではなく、走ってはいけない場所です。豪雨時の運転ルートや避難経路を事前に確認し、命を守る判断を心がけましょう。

後部座席でもシートベルトを忘れずに！

警察庁・JAF

指示に従いましょう。後部座席のシートベルトは、自分の命だけでなく、前席の人の命も守る装備です。近場への移動でも油断せず、乗ったらすぐにカチッと着用しましょう！